

第2回岩見沢市子ども・子育て会議議事録

日時 平成25年12月2日(月) 18:00～20:08

場所 であえーる岩見沢3階 会議室1

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
協議
(1) ニーズ調査の項目について
(2) 幼児期の教育・保育について
- 4 その他
- 5 閉会

○出席者 <委員> 岩見沢市子ども・子育て会議委員11名
<事務局> 子育て支援推進担当次長、子ども課長、子育て支援係主任、子育て支援係

○配布資料 資料1-1 : ニーズ調査票の色分けについて
資料1-2 : ニーズ調査票案(未就学児)
資料1-3 : ニーズ調査票案(小学生)
資料2 : ニーズ調査項目と課題との対応
資料3 : 分野別協議 幼児期の教育と保育
資料4 : 内閣府子ども・子育て会議資料(抜粋)

事務局	1 開会(18:00)
会長	2 会長あいさつ
事務局	3 議事 配布資料について説明
事務局	(1) ニーズ調査の項目について 資料1～2に基づいて説明

委員 J	就学前の方に虐待に関するアンケートがないのですが。
事務局	「第 1 回会議の意見とその対応」で、虐待に関しましては、虐待家庭に訪問することなどを想定して、そういった家庭をみている事業所調査を実施するという ことで整理いたしました。
委員 J	未就学児の虐待については、どのようなイメージを持たれているのでしょうか。
事務局	未就学児の虐待又は育児困難家庭を想定しています。
委員 J	事業所にかからない未就学児の虐待については、イメージはないということですか。
委員 F	どのような項目を入れたらよいと思いますか。
委員 J	小学校の間 34 に 1 つしかないのですが、まったく児童虐待のイメージがない質問ですが、同じ質問でもよいので、未就学児のアンケートにも入れてほしいと思います。
委員 F	例えば、小学生の間 34 と問 34-1 だと、それをみている人たちに対する質問ですよね。
委員 J	例えば、月に 1 回くらいしか子どもを風呂に入れなかったり、親にしてみれば普通だが、子どもにしてみれば虐待になります。こうしたことを、傍から意外に多くの方がみているので、アンケートに入れてもらってもよいと思います。
委員 F	アンケートに入れることは反対ではありませんが、国勢調査まではいかないにしても岩見沢市で広く把握できるような調査はないのでしょうか。この問題については、子育て家庭だけではなく、もっと市で広く調査するような項目ではないか かと思います。 私が思っているのは、むしろ子育て不安に関する調査項目がある方が、今回のアンケートの趣旨に合っていると思います。今回のアンケートは、子育ての当事者に対する質問ですから。
事務局	今回の配布資料にはないのですが、今回の子育て会議のアンケート調査は国から義務付けしているもののほかに、広報に折り込みをして一般の方に調査をかけ

	<p>ようと思っています。調査項目については、まだ整理ができていませんが、その中にご意見をいただいた虐待の項目を入れていくという方向が広くわかる方法かと思っています。</p>
委員 F	<p>それはどれくらいの人数に調査を行うものになりますか。</p>
事務局	<p>広報への折り込みを考えておりますので、36,000 世帯に対して送るような形になります。</p>
委員 F	<p>岩見沢に住民票がある・ないは関係ないということですか。</p>
事務局	<p>そうです。</p>
委員 J	<p>子どもがいる・いないにかかわらず、無作為抽出で配られるということですか。</p>
事務局	<p>全世帯です。</p>
委員 F	<p>未就学児のアンケートに入っていないということは検討していただきたいと思います。</p>
事務局	<p>小学生アンケートの間 34 と問 34-1 を、未就学児のアンケートの中にも入れていくということで整理させていただきます。</p>
委員 F	<p>全戸に送る可能性のあるアンケートにも検討していただきたいと思います。</p>
委員 J	<p>ママさん緊急サポートに関する質問というのは問何番になるのでしょうか。ふわっとした質問しか見かけなかったのですが。緊急サポートという言葉は1つもなくて、家庭外にも預かってもらいたいですかという質問しかなくて。</p>
事務局	<p>未就学でいうと問 21 で使ったことがありますか、問 23 で使いたいと思ったものはどんなものですかという中に、ショートステイなども含まれております。</p>
委員 F	<p>問 20-2 は違うのですか。</p>
委員 J	<p>病後児と緊急サポートは、また違います。病後児は動き出しそうだという話を聞いたので言いませんでしたが、緊急サポートは現在岩見沢市にないので、使っ</p>

	たことがありますかと聞いているのは、現在ないので変な気がします。
事務局	その点は事務局でも検討しましたが、市外の緊急サポートを使っている可能性があるだろうということで入れました。
委員 J	江別市を使っている人もいると結構いますが、あった方がいいですかとか、そういう質問にはならないのでしょうか。緊急サポートという言葉もないので、どうかと思いました。いかにも岩見沢市にありそうな質問で、1 つもないのでふわっとした質問だと思いました。
事務局	こちらの調査項目については確定ではなくて、今日の会議を受けて、再度整理することになりますので、今いただいた意見は反映させていきますので、そういったご意見をいただければと思います。
委員 F	それぞれ皆様にかかわりが深そうなところで何かありますか。 未就学児の間 30 ですが、設問もたくさんあり過ぎて大変だと思えますが、登校拒否・不登校に関する事なども入ってきているので、そのリード文ですが、日頃悩んでいることというよりは、これからの子育てに関してということですよ。 「現在やこれからの子育てに関して」とすると、もう少し答えやすくなるのではないかと思います。
事務局	問 30 設問に「現在やこれからの子育てに関して」という記載を追加することですね。
委員 G	未就学の間 31 は子育て支援施策ということで、選択肢の 18 のところ幼稚園が入っていません。幼稚園でも積極的に子育て支援策を行っていますので、ここに幼稚園も追加すべきだと思います。
事務局	はい。
委員 F	回答を 5 つまでに絞ったのは何か理由がありますか。
事務局	優先順位をみたいという理由です。回答を、あてはまるものすべてにしてしまうと優先順位がぼやけてしまうと考え、5 つまでに絞りました。5 つというのは案としてお示ししているものなので、すべてに回答とした方がいいというご意見であれば変更することは可能ですので、そのあたりを検討していただきたいと思

	います。
委員F	5つまでという聞き方もありますが、重要度で1位・2位・・・と答える方法もあるかと思えます。
委員L	20項目もあるので5つに絞ってしまうのはもったいないと思えます。
事務局	優先順位をつけるというやり方であれば、下に一行加えて、大事だと思う順番をいくつでもいいから書いてもらうというやり方もあると思えます。
委員F	一つひとつ読んでもらって答えてもらいたいということなら、程度を聞くといいと思えます。
事務局	優先順位ということですか。
委員F	優先順位ではなくて5段階か何かで。一つひとつの項目について重要度をどのように評価するかを答えてもらう。大変なことではあるが重要な項目であれば、そこまでやってもいいのかと。
委員A	<p>問30に関しては、日頃悩んでいること、又は気になることは何ですかという設問なので、5つということではなくて、気になるものすべて、いくつでもいいのではないのでしょうか。意見を聞く場合は、回答数を限定してもいいと思えますが、この設問は気になることを聞いているので、いくつでもいいと思えます。</p> <p>あと、回答数を限定するときに、「に」が付くと何か違和感があるので、「5つまで」などとして、「に」はなくてもいいと思えます。</p>
事務局	<p>あてはまるものすべてに○をしてくださいということですね。</p> <p>これは市の独自設問で設問の聞き方も市で決められますので、皆さんのご意見で決めて行きたいと思えます。</p>
委員B	<p>数を無制限にすると、ほとんどに○が付いてきてしまい、何が一番悩んでいるのか見えなくなるおそれがあると思えます。こういう設問を聞くときは、単に気になること、悩んでいることという聞き方をするのではなくて、直近ですごく悩んだこととか、あるいは、すごく困っていることというようなところが出る聞き方をして、数を限定して聞きますよね。自由に選んでくださいとしてしまうと、すべてに○が付いてしまうおそれがあると思えます。何が重要で、何に悩んでい</p>

	るのが見えにくくなるような気がします。
委員 J	緑文字は市の独自設問ですよね。
事務局	回答数を限定するかどうは設問の内容によります。
委員 G	小学生アンケートの間 26 はすべてに○を付ける形になっていますが。
委員 F	これは前回後期計画のときに実施したアンケートを基にしたものです。
委員 G	小学生もアンケートを実施するということではないのですか。
事務局	小学生と書いたものは小学生の調査です。
委員 B	小学生の間 26 が未就学児の間 30 と同じですが、小学生はすべてに○を付けてくださいとなっています。
事務局	両方同じ考え方に揃えるのであれば、すべてにと合わせるのか、ある程度調整するのか。小学生は前回すべてだったので、今回もすべてに回答というのを採用しています。これを変えることは可能です。
委員 F	問 26 のところは、パソコンなり携帯なりスマホとか、メディアに関する選択肢を入れていただきたいと思います。問 26 かどこか入れられるところに入れていただきたいです。
事務局	保護者として子どものメディアとの関係について気になっている、心配だということであれば問 26 になると思います。
委員 I	小学生の方には入れた方がいいと思います。
事務局	未就学児の方はいかがですか。
委員 F	良い悪いは別にして大分子育ての仕方が変わってきたと思います。
委員 L	保育園でも与えている親はたくさんいます。

事務局	皆さんのご意見ですと、小学生の間 26 は子どもとメディアとの関係が心配であるというニュアンスですが、未就学児の場合は、親が積極的に使っているという印象ですが。
委員 J	未就学にどういう質問をされるのですか。今や小学校の担任の先生からの連絡はすべてメールですよ。電話ではなくてラインかメールですからね。
委員 F	前回の委員 B の発言をもとにすると、未就学児のお母さんたちがどういうメディアを使っているのかという質問があってもいいと思います。
委員 J	ツイッターとかフェイスブックとかラインとか。
事務局	その設問については、小学生の間 27 で子育ての悩み等をどこに相談していますかという中に、インターネット上の子育てサイトというのがあります。
委員 F	それもありますが、例えば、お母さんたちが子育ての情報を入手するのに、どういうメディアを使っているか、岩見沢が戦略として子育てに関する情報を提供するとき、どういうメディアを使うことができるのかというための質問ということですよ。
事務局	例えば、未就学児のメディアの取り扱いについては、お母さんたちが子育て情報を得たり、相談をしたり、調べたりするときに、どういった方法で調べているかというのはいかがですか。
委員 J	調べるというよりは、常時使っているのではないのでしょうか。情報の入手方法により 3 つ 4 つの手段を使い分けているお母さんはたくさんいて、そういう実情を知りたい気がします。
事務局	小学生も未就学も両方ということですか。
委員 F	あったらいいと思います。少なくともアンケートに回答していただく方が、今どういうものを使っているのかを聞いておくと、岩見沢市からの発信とか情報提供とかするときに役立つのではないのでしょうか。
事務局	今ある設問に追加するのか、新たに設問を追加するのは検討させていただきたいと思います。

委員 J	情報をどこから入手するのかではなくて、情報を入手する手段として何を使っているかという聞き方がいいと思います。
事務局	小学生・未就学の両方に、情報を入手する手段としてどういう方法を使っているか、入手と発信について、どういう手段を使っているか設問を追加したいと思います。
委員 A	未就学児の間 21 ですが、選択肢 4 の夜間擁護等事業、トワイライトステイは岩見沢ではやっていませんが。
事務局	その点は先ほど申し上げたように、実施していない事業は削ろうかという意見もありましたが、もしかすると市外の事業を利用している可能性もあると思って入れています。これは国の設問項目なので、極力国と同じ形にしようという考え方です。
委員 J	使いたいと思いますか、というような質問に変えられないのでしょうか。知らない人もいるので、岩見沢にはないという説明も入れた方がいいのではないのでしょうか。
事務局	使いたいと思ったサービスについては未就学の間 23 にあるので、ここに加えることができると思います。
委員 J	ここに緊急サポートとか、トワイライトステイとか、何個か加えては。
委員 B	問 23 は使いたいと思ったサービスですか。これは対処方法ではないですか。
委員 J	これは泊りがけではなくて数時間とか入れられるようにした方がいいのでは。
委員 F	これは国からの必須項目ですね。
事務局	必須なので削ることはできませんが加えることは大丈夫です。 使いたいサービスに関する設問は問 23 なので、ここにトワイライトステイと緊急サポートを。そうすると時間が関係してきますから、日数と時間に欄を分けたいと思います。泊りがけ又は日中・夜間などと聞きますか。
委員 F	そうなると答え方が難しくなりますね。何泊で答えるのでしょうか。

事務局	時間を聞く欄を追加しようと思います。削ることはできませんが、加えることは可能です。
委員B	未就学児の間 23 は使いたいサービスという話がありましたが、国の調査項目をみていくと、宛名のお子さんの病気のときの対応について伺いますという形の質問なんです。国は、この調査票をつくる時に現状のニーズを把握しなさいと、今までのサービスの利用状況と潜在的なニーズについても把握しなさいと言っています。これからすると、間 23 はニーズというよりは現状調査という意味合いで、国は設定していると思います。
事務局	国のモデル案の間 20-1 ですね。国と同じ設問になっています。
委員B	間 23 に対応する設問は、国の間 25 になります。
事務局	これはどういうサービスを使いたかったかという設問なので。
委員B	ここに泊数が入ってくるとそれが見込み量になるということでは。
事務局	間 23 は、どんなサービスを使いたいかということなので、対処方法は1年間の対処方法ではなく、こういうサービスが使いたかったというのがふさわしい回答になります。
委員B	間 23 に、使いたかったサービスというの、イトウの項目しかないですよ。あとは反対に使えなくて同行させたなどという項目ですよ。使えなかった人も含めて、本来ショートステイがあれば、これだけの利用者がいたのではないかという見方ではないかと思いましたが。
事務局	この間 23 は国の間 25 に対応していて、どう使いたかったかというものではないので、どう使いたかったかというのを、トワイライトとか緊急サポートとかいう形で追加するのがいいでしょうか。
委員B	国の方でいうと、子育て支援事業に関する質問項目というのが、間 19 で設定されていたかと思います。ここに地域の子育て支援事業の利用状況について伺いますとあります。今回そういった子育て地域支援事業にあたるようなものを、あるいは利用するかしないか、まとめて聞くような項目はないのですか。

事務局	それは問 17 になります。実際にあるサービスを知っていて、使っているかどうかを聞いた方がいいとご意見がいただいたので、市で実施しているものをすべてこの問 17 にあげています。
委員 B	潜在的なニーズの部分は出てきませんね。
委員 J	今岩見沢にないもの。
事務局	それを問 23 の後ろに追加する方がいいかと思います。
委員 B	子育て支援事業全体に関して言えるような設問はないのでしょうか。
委員 J	今これとこれは岩見沢にないけどとか。
事務局	問 31 に子育て支援施策に関する設問項目はあるのですが。
委員 B	これは、子育て支援事業とリンクしているものでもないですよ。
事務局	もう少し広がっています。 1 箇所ですべてまとめるのがいいのか、項目ごとに分け潜在的なニーズを聞くの がいいのか、どちらがいいのかご意見をいただければ。もし該当する項目の近く に置いた方がいいということであれば、問 23 の次に潜在的ニーズを聞く設問を 付け加えるということになります。全体をみるということになると、問 31 をも う少し整理する必要があります。そういった方法になろうかと思います。
委員 B	国の問 19 子育て支援事業の利用状況にあたる部分というのが、先ほど言われ た問 17。この部分が今あるサービスだけに限定せずに、どんなサービスが使いた いか聞くと分かりやすいのではないのでしょうか。ただ、このサービスがどうい うものなのかということが明示できないと、あまり意味がないとも思います。 それと、問 23 は比較的分かりやすいが、小学生の間 22 をみるといわゆるレス パイト的な位置付けがなくなっているんですよ。これが未就学の間 23 にあた るものだと思いますが、聞き方としては小学生の方がいいような気がしました。
委員 J	私は反対です。全体をやると大きくなり過ぎるので、市預かりの分だけ別個に やった方がいいと思います。岩見沢市にない東京や札幌にある事業をずらっと 並べて、やりたいですかと聞いてあげた方がいいと思います。預かり事業だけ、

	<p>未就学の間 23 と小学校の間 22 のところに泊以外の欄を追加し、下にない事業をずらっと書く方が、皆、やる気あるじゃん岩見沢市となると思います。全体にすると大雑把になり過ぎて、みづらくなると思います。</p>
委員 L	<p>未就学の場合、必ずしも保育園・幼稚園に行っているわけではないので、小学校の場合は、ある程度把握が可能ですよね。今対比して言っていますが、それはそれで、ある程度分けておいた方がいいのではないですか。</p>
委員 B	<p>レスパイト個々の設問から受けるレスパイトのイメージが未就学の質問項目と小学校の設問項目では違うというイメージを持ちました。小学校の方は、かなり限定的に取られてしまうような気がしました。</p>
委員 A	<p>未就学の間 23 ですが、家族以外にみてほしいと思ったことはありますかという問いなのに、回答は実際に利用したことを答えるようになってますよね。それであれば、みてもらったことはありますかという問いで、実際にあった人がそれはどれとを答えて、その次にみてもらったことはないが、そう思ったことはあり、そのときにどんなものがあつたらいいと思ったかというような設問が次に続くと連動して答えやすいと思います。</p>
委員 J	<p>「2. なかった」の下に続くということですね。なかったときにどうしたかったかということですね。</p>
委員 A	<p>問 23 は、みてもらったことがあるかという内容なので、みてもらいたいと思ったかという問いの仕方は、少し違うと思いました。</p>
事務局	<p>これは国の聞き方と同じですが、問 23 は、どういう利用をしたかという聞き方にし、その次に問 23-1 として、こういうサービスがあつたら利用したかったかを追加してはいかがでしょうか。</p>
委員 J	<p>時間単位も付けるということですね。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員 A	<p>問 31 の市が重点的に取り組む必要が高いと思われるものの中に、ショートステイ等が入っていません。</p>

事務局	では、ショートステイとトワイライトステイを追加する形で宜しいでしょうか。
委員F	できるだけページ数を抑えたいということは分かりますが、もう少し○を付けやすい形にしてください。
委員G	このアンケートは、前期・後期の子育て計画、これからの岩見沢市の子育て支援に活かしてくということですよ。
事務局	今回は前期・後期に分かれていなくて、5年スパンの計画です。前回は10年計画で前期・後期に分かれていましたが、今回は前期・後期とは言わず、平成27年から31年までの計画となります。
委員G	そうすると、アンケートに経済的な設問がありません。例えば保育料。保育料によって子どもたちがどこに行くか、大きな変化があると思いますので、それが把握できないとうまくいかないのではないかと思います。
事務局	保育料の項目については未就学児のということですか。
委員G	そうです。
事務局	追加するとすれば、例えば、重点的に取り組んでほしい施策の中に保育料の軽減とか入れるということですか。
委員G	現在の保育料が高いと思うか、満足しているかというところから聞いてみてはどうでしょうか。問31の選択肢の中に、市の保育料の援助がほしいというのがあってもいいと思います。
事務局	問31に、保育料の軽減措置に関する選択肢を追加します。問13のあたりが保育園・幼稚園の利用状況に関する設問なので、認可・認可外どちらを利用しているかを聞いて、その満足度を聞くということですか。問14-1に保育料についての質問を入れて、負担に思っているとか、現状くらいでよいとか、そんな感じでしょうか。これを問14に追加します。
委員D	母親が子どもの面倒をみているのが一般的だとは思いますが、今はお母さんが子どもをみていないケースもあって、お爺ちゃん・お婆ちゃんがほとんどみてい

	<p>るとか、お兄ちゃん・お姉ちゃん、兄弟が面倒をみているというケースも結構あるので、例えば、育児の協力をしてくれる人が周りにいますかとか、悩みごとを身近に相談できる人はいますかという質問をして、いないという場合は、どうしているのか、誰に頼っているのか聞いてみてはどうかと思います。あとは、今、子どもの面倒を主に誰がみていますかということで、母親ではない場合、その理由を聞くなどしてはどうかと思います。例えば、小学生の間 34-1 の選択肢 9に特に何もしていないというのがあるので、どうして何もしなかったのかまで聞くことはできないでしょうか。</p>
委員 F	<p>それは是非知りたいと思います。未就学の間 6 で主な養育者を聞いているので、そこに何か加えるというのはどうでしょうか。</p>
委員 J	<p>その他をもっと増やせるかどうかです。</p>
委員 F	<p>ご意見は分かりますが、ここで注意しないといけないことがあると思います。これはスクリーニング調査ではなく、意識調査なので、今回の趣旨とは少し違うと思います。副会長がおっしゃったことはその通りなのですが、少し調査の意味が違ってきてしまうと思います。</p> <p>岩見沢市の政策にとって、どんな場所が必要か、どういうニーズに応えられるかというのが問題で、どんな家族がいるかということも重要だと思いますが、どういう家庭が危険かということをチェックするシートではないので、前の調査に比べてどうか、大体の傾向を把握することがとても大切だと思います。</p>
委員 B	<p>9の特に何もしていないというのは、どこにも相談しなかったということかもしれないですね。ここは、どこに通告しましたかということを知っているところですよ。</p>
委員 L	<p>会長がおっしゃるように、あまり詰め込みすぎると回収率が悪くなると思います。</p>
委員 J	<p>本当に言えない人はたくさんいて、そういう人たちは本当のことは言わないと思います。</p>
事務局	<p>相談する人がいないとなった場合に、その人はどうしているのかという設問があればいいと思いましたが。</p>

委員 F	それは問 31 に関わってくるのでは。
委員 A	小学生の間 32 のサービスの種類のところで、光が丘子ども家庭支援センターも相談窓口としてありますが。相談窓口を受けていますので追加をお願いします。
事務局	追加いたします。
委員 F	これは聞きたいところですよ。
事務局	今回の案は市のサービスに限定しているので漏れていましたが、追加をいたします。
委員 F	他にも追加したいものはありますか。
委員 A	最初の「回答するに当たってお読みください」のところですが、これも国からの文章を岩見沢市に直したということですか。
事務局	はい。これは国がつくった文章をそのまま使っています。
委員 A	そうだと思います。アンケートは内容はもちろんですが、回答していただくことによって、市の子育て事業に関心を高めてもらったり、市がこういう子育て事業をこれからやっていくということを知ってもらうという意味もあると思います。そのときに、このお読みくださいのところは一番読みにくいし、一番読みたくないし、飛ばしてしまいがちなところになってしまっていますが、この文章をもう少し興味を引くような、分かりやすく端的に、ここに書いていただくといいのかと思います。
事務局	本日は時間がなく、皆様にお示しできませんでしたが、イメージや絵、短い文章などで、差し替えようと考えています。このままではなく、皆さんの声で岩見沢市の子育て支援策ができていきますということ、こういうことを知ってほしいですということを、目でみて分かりやすい言葉などで変えます。
委員 F	良いことを言っていますが、分かりにくいですよ。
事務局	このままですと読みにくいですので、こういうことが変わりますという書き方

	<p>に変えていきます。</p>
委員F	<p>他にいかがでしょうか。今日すべてを決めるのではなく、後で気付いたことをメールしてもらってもいいですよ。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員F	<p>本日は、もう1つ協議がありますので、アンケートについてはもう一度みていただいて、お気付きのことがありましたら、事務局に連絡いただきたいと思います。</p> <p>では、協議「(2) 幼児期の教育・保育について」事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(2) 幼児期の教育・保育について 資料3～4に基づいて説明</p> <p>最後に、先日の第1回目のときにもいろいろご意見がありました、病後児又は病児保育についてですが、現在、開設に向けて具体的な議論をはじめたところです。その利用定員について、平成22年から26年までの後期の次世代育成支援行動計画をお示ししている最中ですが、その中で病児・病後児あわせて6名という目標値を設定しております。したがって、あわせて6名ということを目指し、病児・病後児保育について検討を進めていきたいと考えております。</p>
委員F	<p>1日6名ということですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員F	<p>これから徐々に国の動向がはっきりしてきたり、それから小規模保育もそうですよね。これから方針がはっきりしてくるので、中々ここで形にするのは難しいと思いますが、残りの時間でフリーなディスカッションするというイメージでいいですか。</p>
事務局	<p>はい。</p>
委員F	<p>それで問題点を絞っておき、そのあと分科会で扱われることになりますか。</p>

事務局	検討します。
委員 F	ご意見ありますでしょうか。
委員 J	そもそも 10 年前に院内保育をやってくれということから話が始まっています。なぜ院内保育かという、主に女医さんとか夫婦ともに医師などの場合に、お子さんが病気になったときに、辞めてしまうことが多いという状況があります。結局、病児・病後児保育がないと辞めていってしまうということです。10 年前からずっとやっていて、後期のときにも市役所と一緒に、千歳市民病院の病後児保育センターを研修に行き、青写真をつくったけれど、お金が取れなくて断念した経緯がありました。今回は、市立病院で院内保育、市役所の方で病後児保育と聞いていましたが、病児・病後児保育なんですね。
事務局	今検討しているのは病児です。病後児については、民間の保育園で取り組もうとしている園があります。
委員 J	院内保育所に附属で付けたら、病児を 3 名ですか。
事務局	そうです。
委員 F	今の話はどれくらい進んでいる話ですか。
委員 J	予算が取れるかどうかというところです。
委員 F	だいたい青写真はできているのですか。
事務局	予算要求をしている段階で、それが認められるかどうかは、3 月の議会までにはある程度方向が分かります。施設をつくるか、つくらないかというところで、施設をつくるということになれば、事業を実施することになりますので。
委員 F	3 月には、この委員会での上申みたいなのは、あまり関係しないのですか。
事務局	予算について財政課や市長との予算ヒアリングを経て決まっていきますので、ここでご意見をいただいたということ、そのヒアリングの中でお伝えしていくという取り扱いになります。

委員 J	<p>内々で病後児保育をやるからということで、雇っている医師がいます。それがなければ北海道大学の消化器内科は撤退して、岩見沢では消化器内科がなくなって、大腸がんをみられないという事態になるということで、2年前から大慌てで、ものすごく苦労して病後児保育をやるという条件で受けているのですが、病児だけで病後児はやらないのであれば、おそろしいことになるかもしれません。市立病院の傍で子どもをみるという約束で受けている医者なので、病後児をやらないのであれば、今後、岩見沢市民全員、大腸がんはすべて札幌市に行ってくれとなる可能性があります。今、その条件で北大の教授と約束しているのです。</p>
事務局	<p>病児と病後児の線引きも難しいと思いますが。</p>
委員 J	<p>医者から言わせれば簡単です。病児はうつる。うつらないけれど7度4分とかだと保育園は断る。微熱があるから。うつらないけれどまだ治っていないというのが病後児。微熱の期間はどこにも行けないんですよ。それが病後児。病後児を扱えないとちょっと危険かもしれない。</p>
委員 L	<p>基本的には病院との連携がないといけない。看護師さんをしっかりと置くというのが条件ですから。</p>
事務局	<p>子ども3名に対して看護師が1名。10名に対して保育士が1名ですから、看護師と保育士1名ずつ必要ということになります。</p>
委員 F	<p>基本的に病院にあるということが運用としてはやりやすいということ。</p>
事務局	<p>病児の場合は急変という心配もありますので、医療機関と協力してということになります。</p>
委員 F	<p>前からの引き続きの問題なので、何か良い形が見いだされることを期待したいですね。残りまだ認可保育定員の話がありますよね。</p>
委員 G	<p>子どもの数によって、また、保育園・幼稚園の数によってどうするかという問題だと思いますが、今の親たちをみていると保育の質を問われているということが大きいと思います。子どもの数だけ、定員があるからそれでいいということにはならないような気がします。親は保育の中身を選んで、保育園や幼稚園に通わせていますので、そこをしっかりとみないと、子どもの数が少なくなったから、これだけの施設で間に合っていますという訳にはいかないと思う。あと、認定こ</p>

	も園で、ここに幼保連携しか書いていませんが、これは4つの型を含めて、幼保連携と言われているということで宜しいですね。
事務局	はい。
委員F	4つの方とはどういうことですか。
委員G	幼保連携型と幼稚園型認定こども園、保育所型認定こども園、あと1つは、地方裁量型認定こども園。
委員F	先ほど言っていた地域型保育事業とは違うのですか。
事務局	それはまた違います。
委員L	地域によっても違います。
委員G	幼稚園がない自治体だと、そういうところを地方裁量型になります。
委員F	そうすると、岩見沢市では地方裁量型という形はないということですか。
委員L	あまりないと思います。
委員L	国の答申では平成27年には、はっきりすると言われていています。幼稚園にしても保育園にしてもどういう形にするかははっきりと決まる。
委員G	平成27年度までに、市内のほとんどの幼稚園は認定こども園に向けて動き始めるでしょう。
事務局	この制度については、まだ不透明なところがありますので、認定こども園になった場合の保育料がどうなるかなど、まだ決まっていない部分があるので、そういった情報を随時開示しながら考えていただくということになるかと思います。
委員L	最近共働きが増えてきているという傾向があるので、ある程度子どもが減っても、保育の時間が長くなるということがあると思います。

委員G	今回、事務局に施設の数を出していただきましたが、この数を事務局はどのように感じていますか。
事務局	難しい質問ですね。
委員F	逆にお聞きしたいのですが、この数をどのように訴えられたいのですか。
委員G	先ほど言いました保育の質。そこには保育料が高いからここに行かせるということもあると思いますが、今ある既定の保育園よりはこちらの方がいいという形で入所している子どもたちもいます。様々な働き方をされている保護者の方がいますので、それに臨機応変に応えられるのが認可外保育施設の特徴でもあるのかと思います。市は待機児童なしと言いますが、232人というのは、今まったく補助がない状況です。恵庭市の子育て支援に関心を持って、いろんな資料を取り寄せていますが、恵庭では、認可外保育施設の職員の健康診断、病後児の保育事業に対しても十分にやっていますし、かなりいろんな意味で補助事業をやっています。それと比べると岩見沢市は、まだまだなのかなという気がしています。232名というのは、そういうところに行っていると私は捉えています。
委員F	つまりそういうニーズが多い。
委員G	そういうことです。
事務局	認可外の利用には経済的な理由という側面もあると思います。所得が高いと保育料が上がってしまうという方もかなりいて、認可外だとリーズナブルに価格で抑えられるという方もいらっしゃるのと同時に、多様な就労形態があるので、認可の保育所や幼稚園ですと難しいという方が預けているというのもありますよね。いくつかパターンがあるのだと我々も思っています。
委員F	難しいというのは、ハンディキャップとかそういうことですか。
事務局	例えば、労働時間が短いとか。
委員F	それこそ先ほど言った認定条件に合わないということですね。
事務局	また、逆のパターンもあると思いますが。

委員L	でも最近では12時間くらいいる子もいます。
委員F	認可外以外の子どもたちの利用時間のデータはありましたか。
事務局	認可外保育所についてはだいたい横並びで、7時から19時の12時間というところが多いです。市内の認可保育所はすべて延長保育をやっていますので、ほぼ19時まで。
委員F	それを目一杯利用される方が、かなりの数いらっしゃるということですか。
委員L	最近増えていますよ。ゼロ歳児もいます。
委員F	認可外をみても10時間を超える人たちがかなりいる。3分の1を超えていますよね。こういうことに関わるご苦労とか、安全に関わる問題とかあるでしょう。あとはどうでしょうか。保育の認定条件ですよね。
事務局	認定条件については先ほど説明したとおり、国から基準が示されますので、そこから大きく緩和したり縮小したりという考え方は、今のところ想定していませんが、皆様のご意見で、こういうところを拡大したらどうかとか、この部分はむしろないほうがいいのではないかと、こういうところがあればお聞かせいただきたい。
委員F	保育の現場で虐待・DVのおそれがあることというのは結構あるということですか。
事務局	現在も要保護児童対策協議会というところで、この子は保育所に入れた方が安全を確保できるという理由で入所している子どももいます。
委員F	そういうところの保育園が引き受ける形になっているのですか。
事務局	その時点で空きがあつて入れるところです。ただ、空きがないからその子を待機にするということは絶対にありません。要保護児童対策協議会で、その子の保護が必要となった場合は、必ずどこかに入れます。
委員F	待機児童がいなくても、かなり遠方から、例えば幌向から岩見沢の街中まで来る人たちとか、その逆とか、そういう形で保育を利用されている方もいらつ

	<p>しゃるのですか。待機児童をつくらないために。</p>
事務局	<p>待機児童をつくらないためというよりは、ご本人の希望です。幌向に住んでいても職場が岩見沢にあるとか。逆に岩見沢にいて幌向に職場があるという方は、あまりいないので、幌向保育園の充足率が非常に低くなっています。基本的には保護者の希望になります。</p>
委員F	<p>今は保護者の希望で街中の保育園に入ることができるくらいの充足率なのですか。つまり待機児童はいませんというのはそうなのですが、待機児童にならないために苦労されている方とかは、いらっしゃるのかということです。それくらい余裕があるかということです。</p>
事務局	<p>入所待ちという方はいらっしゃって、それがどういう方かというのと、どうしてもこの保育園に入りたい、他に空きはあるけれど、ここに入りたいという方は何人かいらっしゃいます。あと、これから求職活動をしたいので入れたいという方が待っているというのがありますが、岩見沢の場合は4月で年度が変わると年長さんが卒園していきますので、4月の時点ではほぼ希望どおりと言っていいと思います。</p>
委員G	<p>今、保育園はほぼ定員オーバーしていますよね。例えば、前回資料をもらったときに、ふれあい子どもセンターが定員割れをしている。その原因は何ですか。</p>
事務局	<p>延長保育を実施していないというのもあると思いますし、もしかしたら、街中から離れた場所にあるためかもしれません。</p>
委員G	<p>今、延長保育はどここの保育園でも当たり前に行っていますが、それができないのは何か理由があるのですか。</p>
事務局	<p>民業を圧迫しないというのが基本的な考え方になります。公立なのでまずは私立を優先して。</p>
委員G	<p>例えば、幼稚園でもそうですが、定員をオーバーする収容というのは、子どもの視点から見ると難しいところがあるのではないのでしょうか。以前、保育園が少ないとき、定員オーバーしなかった時代は、確かに民間の保育園を助けるという意味で公立から私立に行っていたと思いますが、今は他の大部分の保育園が定員をオーバーしている。120%というところもありますよね。そういう中でゼロ歳</p>

	<p>児も含めて保育するというのが果たしていいのかどうかということを考ええると、ふれあい子どもセンターにその子たちを入れてもらうということは、できないのでしょうか。</p>
事務局	<p>市側としては、極力定員オーバーになっているところに負担をかけないような努力はしております。ただ、先ほど申し上げたように、延長保育をやっていないという、ちょっとした差があるということで、あまり指向されてきていないという状況です。</p>
委員 F	<p>将来の推計から今後減っていくということを考えると、今過剰になっているところも少しずつ緩和されているというイメージですか。それとともに、保育する人たちの人員も減らしていくというイメージになって、今のような充足率を超えながらも、やっていくような運営のイメージでいくことになりますか。つまり、定員ぎりぎりのところで埋まっているから OK というのではなく、今の定員のままで 100% 来てしまったら大変ですよ。小学校で言ったら、20 人の教室でやるのと、40 人の教室でやるケースでは違いますよね。どれくらいの適正で考えていくのか。</p>
委員 L	<p>保育園に対する国の基準自体も甘いですよ。</p>
委員 F	<p>これから発達障害も含めてハンディキャップの問題もありますよね。</p>
委員 L	<p>そうです。今は、そういった子も受け入れている状態です。実質は、どこの保育園でも国の保育士の基準からいったら増やしています。ですから、保育の質の低下ということには行っていません。むしろ定員に則っているところは則っています。</p>
委員 F	<p>確かハンディキャップを持った子たちが入ると...</p>
委員 L	<p>まだ基準は甘いです。現実には 2 人に対して 1 人でやっているところがあります。だから 1 対 2 ですよ。その分は保育園でも持つというのが現実です。今は、受け入れざるを得ませんからね。障害児がダメとか言えませんから。</p>
委員 F	<p>岩見沢市は待機児童がないということが今回何回も出てきていますが、いないからいいということではなく、それをどう担保していくのかというのが、これからの幼児教育の質に重要だと思います。</p>

委員 L	<p>先ほど言った認定子ども園についても、保育園の直接経営で保育料も高くなりますので、現実には親にとって負担があると思います。簡単に入所してくるかと言えば、そうはいかなくなると思います。できるだけ安いところに行くと思います。ただ、現在は国も道も保育園に両方の免許を持ちなさいと言っていることは同じで、今の若い子は、保育園と幼稚園の両方の免許を持っています。そういう意味では、質的な面では対応できると思います。親にとっては経済的なこともあると思いますので、現実的には難しいと思います。</p>
委員 F	<p>認定子ども園になると保育料が上がることになるんですね。事業所の方で取ることになるから。</p>
事務局	<p>認定子ども園になると保育料は、ある程度の基準を示すことになりますので。今の料金からは上がるのが予想されますが、まだ確定的なことは申し上げられません。</p>
委員 G	<p>来年度、公定価格が出た時点で決まっていこうと思います。</p>
委員 F	<p>軽々しく言えることではないが、岩見沢市は子どもたちに質を保証する市としてやっていく、保育料をサポートしますよと言えば、市外からも子育てのために岩見沢市に引っ越してきてくれる人はいますかね。子どもは減りますが、どうやって集めてくるかということですよ。そうしたら医療の充実はどうなるかという話になるとは思います。</p>
委員 J	<p>現在、医者は 42 人いますが 30 人は単身赴任です。家とマンションは札幌市にあって、当番のときだけ岩見沢に泊まるというのがほとんどのパターンです。だから、共働きでお母さんが向こうで働いていて子どもが病気になったときに、岩見沢で病後児を預かりますよと言えるかどうか。こうした環境がつかれるかどうか。家族ごと引っ越してくるのはほとんど無理です。</p>
委員 G	<p>今、道内で人口が増えているのが東川町らしいのですが、あそこは本当に子育て支援を一所懸命やっているんですよ。ですから、旭川からわざわざ若い夫婦がそこにやってきます。やはり子育て支援をしっかりとやっていけば、人も増えるのではないかと思います。恵庭もそうですよね。今も実際増えていますよね。</p>
委員 F	<p>東京から来た私からすると、岩見沢市は札幌から近いと思うのですが。</p>

委員 J	近いからこそ札幌に住む人が多いと思います。
委員 F	アンケートに比べると、不確定な部分が多くてイメージしづらい部分もあるかと思いますが、とりあえず、ここまでとさせてもらってもよろしいでしょうか。
委員 I	子どもや子育て家庭の状況に応じた子育て支援の提供というところの中で、満3歳未満の子どもを持つ、保育を利用しないで家庭で子育てをしていらっしゃるお母さんがいらっしゃいます。そのお母さんたちに対して上から与えるものではなく、お母さんたちが独自でサークルをつくって、皆が助け合ったり、話し合ったり、愚痴を言い合ったり、教え合ったりと、とても有効なサークルをやっていると思います。未就学のアンケートで、「回答するに当たってお読みください」の2つ目の黒ぼつですが、とても大事なことだと私は思っています。「乳児期におけるしっかりとした愛着形成を基礎とした」というところですが、ここを支援するのは本当に大事なところだと思います。ですから、これがこの制度の中に入るのかどうか。例えば、お母さんたちがそうしたサークルを起ち上げたときに、それをしっかりと支援する人材なり、手当なりといったものがあるのもいいのではないかと思います。
委員 F	本当に大事なところだと思います。家庭で保育をしている人たちが、どんな保育をしているのかというところは、とても大事なところだと思います。どういう人たちの力を借りながらとか、応援してもらいながらということですよ。
委員 I	この辺が今までの話の中では抜け落ちているのかと思いました。
委員 F	大事なお指摘ありがとうございます。今日まだ声を出していらっしゃらない方がお二人いますので、いかがですか。今日の感想でも結構です。
委員 H	前回に引き続き難しい話だったので、本当の感想でいいですか。一番最初の議論では、ひとり親の子育て支援ですとか、お爺ちゃん・お婆ちゃんが面倒をみてくれなくて、例えば、冠婚葬祭あったときにどうするかといった悩みがあるところのニーズ調査について議論して、2番目の議論では逆に保育所の数が多いからどうしようかという議論があって、まったく逆の雰囲気だと感じています。保育所が違う機能を持ったり、入所の緩和というところで、ひとり親の方が子どもたちを育てやすい環境に機能していけば、数を減らさずに、保育所を有効活用していけるのではないかと思います。

委員F	大事なところです。ご意見いただきありがとうございます。
委員E	アンケートについては乳幼児健診の中で、お母さんたちにアンケートを取っているのですが、その内容と新しく市で行う内容にかぶる部分が多かったので、この内容をアンケートで聞くのはいいと思っています。国で示されている部分の緊急サポートシステムとか、まだ岩見沢市で取り組んでいない部分は、皆さんの意見を聞いて、やはり加えた方がいいと思いました。
委員F	保健センターでも似たような調査をしているのですか。
委員E	ここまでは詳しくありませんが、お母さんたちに、今の体調や悩みごと、ご主人は協力してくれるか、育児支援をしていくうえで、虐待の予防も含めて、アンケートは聞いています。
委員F	検診に来た人に対して。
委員E	そうです。来ない人にはそれぞれで確認しますので、すべてではありませんが、ざっくりとは聞き取ります。
委員F	保健センターの方のアンケートで、今回の質問項目の参考になるようなものがありましたら、また、情報を提供していただければと思います。その他に何かありますか。今日の協議はここまでとなっています。今日いただいた意見は、事務局で整理していただいて、どのように反映するかまた説明をしていただきたいと思います。
事務局	<p>ニーズ調査につきましては、今いただきました意見で大体こう取り入れたらいいのではないかという話をさせていただきましたので、それを反映するような形で整理いたします。整理の仕方については、申し訳ありませんが時間の都合上、事務局にお任せいただきたいと思います。帰宅された後、こういうものを追加すればよかったというものがあれば、メール・電話・FAXでも結構ですので、12月4日水曜までに事務局にお知らせください。</p> <p>また、今回は、幼児期の教育・保育が事業分野別の協議になっておりましたので、子育て支援等のお話が出ませんでした。今後、子どもに関する事、子育て支援に関する事は、分野別協議で随時取り上げていきます。次の2月会議では、子どもの放課後児童対策、障害の早期発見・早期療育、また、幼児期からの遊びを通じた知力・体力の向上というテーマでお話をし、また、4月になります</p>

	<p>が、子育てについては育児困難家庭の支援と虐待の防止、ひとり親家庭の自立支援、子育てストレスの解消というテーマでお話をいただきますので、それまでにご意見がございましたら、メモをしておいていただければと思います。どういう分野でお話をしていくかというのは、1回目でお配りした資料の最後に整理をしておりますので、思いついたことがありましたら書き加えておくなどの準備をしていただければ大変ありがたいと思います。ニーズ調査の追加項目がある場合は、水曜までということをお願いをしたいと思います。</p>
委員 J	<p>4月の日程はまだ決まっていない。</p>
事務局	<p>4月の日程は2月の会議のときにお出しできればと思っています。いつ頃までに分かれればよろしいですか。</p>
委員 J	<p>1月くらいまでに決めないと4月は時間を取るのが難しい。</p>
事務局	<p>1月には皆さんにお示しできるよう準備を進めさせていただきたいと思いますので、宜しく願いいたします。</p>
委員 F	<p>その他はありますか。</p>
事務局	<p>事務局からは特にありません。皆さんから付け加えることがあれば。</p>
委員 F	<p>委員の皆様から何かありますか。では、本日の子ども・子育て会議は以上で終了したいと思います。ご協力ありがとうございました。</p>
事務局	<p>次回の会議は2月17日月曜日の午後6時からとなっています。分野別協議は、子どもの支援策についてです。また、専門部会についてですが、12月27日午後4時30分から。テーマは、であえーるの施設集約についてですので、委員の方は宜しく願いいたします。後日あらためてご案内とともに、協議資料をお送りいたします。本日は、ありがとうございました。</p>
閉会	<p>20時08分</p>